

「願いよ、かなえ」 光に託す大地への祈り

【はじまり】

“からかさ万灯”の歴史は古く、その始まりは江戸時代中期頃からといわれています。古来より「雨乞い」には“太鼓”か“煙火”といわれるくらい、各地に風俗習慣として残されており、からかさ万灯の仕掛花火もその一つです。

日本での花火の歴史は、天文12年(1543年)に鉄砲伝来と同時に火薬配合が伝来したことに始まります。江戸時代、徳川幕府が「凶作や疫病流行」に対して「豊作祈願・悪病退散と慰霊」を願い実施したのが、その起りとされています。

毎年8月15日の祭礼には、大畑地区内を山車が賑やかにねり歩く

点火とともに響く轟音

蕎神社由緒



本殿は約400年前の慶長8年(1603年)に再建されたが、兵火に遭って大部分が焼失した。その後、正徳元年(1711年)に再々建されたが、平成7年、不審火により焼失し、現在の社殿は、平成11年11月に竣工した。祭神は阿波の国忌部氏の祖 天の日鷲命。五穀豊穣、家内安全の神として祭られている。

からかさ万灯とは

【由来】

土浦市大畑は、名前のとおり畑作地帯であり、田は谷津田で降雨のみを水源としており、夏に雨が降らないとたちまち干ばつになり、当時の農民は自分たちの食糧にさえ苦慮しました。そこで、雨乞いの願いを込めた仕掛花火による「からかさ万灯」を神前に奉納することで、五穀豊穣を願ったと伝えられています。

【祭礼当日の流れ】

早朝より合図の花火が打ち上げられ、日中は山車が地区内を賑やかにねり歩きます。そして、日が暮れると呼び物の「雨乞いばやし」につづき、クライマックスの「からかさ仕掛花火」へと移行していきます。

【その姿】

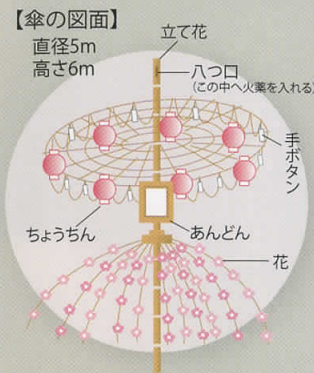
遠く離れた場所から点火された網火は、すさまじい勢いで観衆の頭上を稲妻のように一直線に走り、大傘に点火され、色鮮やかな火花が夜空を染めて降り注ぎます。その様は、一途に神に祈る農民たちの願いが天に通じ、勢いよく雨が降るように感じられ、美しく艶やかな情景を醸し出します。実際に、雨が降り出したことがあるほど、神秘的で美しい光の祭礼です。

【国選択・県指定 無形民俗文化財】

約260年前からの永きに続く歴史的、民俗的行事であり、民俗的資産価値の高いものと認められ、昭和37年に茨城県無形民俗文化財に指定、昭和57年に国選択無形民俗文化財に選択されました。

技法^{再現}

直径5m高さ6mの大傘は竹製。現在は、火薬類取締法により花火の製造を指定の煙火業者に依頼しているが、明治以前は旧大畑村の青年達によって作られていた。火薬の調合、仕掛けにいたるまで門外不出の秘伝とし、外部にもれるのを恐れ、青年の内で最古参のもの以外は知るすべも無く代々引き継がれてきた。



【古金集め】

花火のあざやかさは、火薬に混ぜ合わせる鉄粉の良し悪しで決まるため、鉄粉の原料になる古い良質の鍋や釜を吟味し集めることから始まる。

【さび落し】

集められてきた古鉄は汚れがひどいので、きれいに洗い、石の上または砥石で磨きだす。そのあとは金づちで、細かく打ち砕く。



【鉄粉づくり】

金づちで打ち砕くだけでは、細かくなれないので、さらに薬研にかける。それを粉ふるいにかけて微細な鉄粉を作り出す。

【桐炭づくり】

鉄粉と混ぜられる炭粉は桐の枯れ枝を焼いて作る。炭に桐炭を使用することによって花火の威力を発揮する。桐炭も薬研ですり作り出す。



【調合と仕込み】

このようにして用意された原料は、花火の種類によって調合する。そして、数ある仕込みの中で“八つ口”は最も重要でむずかしい。

【傘の組み立て】

花火が仕掛けられる傘の本体は、直径5m、高さ6m余り。万灯当日になると、保存会の手によって組み立てられる。



夜空を染めて降りしきる光の芸術



五月雨のように降りしきる
色鮮やかな花火

概要

Karakasa Mando

- 名称 ● 大畑のからかさ万灯 (仕掛花火)
- 所在地 ● 土浦市大畑・鷲神社
- 祭礼日 ● 8月15日
- 管理団体 ● 大畑からかさ万灯保存会
- 祭神 ● 阿波の国忌部氏の祖 天の日鷲命
- 境内 ● 面積約2000㎡ / 氏子約200戸
- お囃子 ● 大太鼓 (3) / 小太鼓 (6) / 大皮 (1)
大拍子 (1) / 鉦 (3) / 笛 (2)
三ぎり
ひよとこばやし
きつねばやし
おかめばやし
雨乞いばやし



昭和57年
国選択無形民俗文化財に
選抜される

- 昭和37年 ● 茨城県無形民俗文化財に指定
- 昭和57年 ● 国選択無形民俗文化財に選抜
- 平成14年 ● 地域伝統芸能大賞受賞
- 平成14年 ● 文部科学大臣賞受賞

水と緑と歴史のまち土浦 周辺観光スポット

小町ふれあい広場



土浦に残る“小野小町の伝説”に触れながら、家族で楽しめる交流の場。

朝日峠展望公園



関東平野の大パノラマを一望できる公園。パラグライダーの飛行シーンも見ることができる。

清滝寺 (清滝観音)



大同2年 (807) 徳一上人によって創建された寺。坂東26番札所として有名。

日枝神社



毎年4月第一日曜日に、流鏝馬まつり (県指定無形民俗文化財) が行われる。



常磐自動車道
土浦北ICより約5分

※祭礼日当日は、土浦市役所新治庁舎、藤沢小学校の駐車場をご利用下さい。

お問合せ 小町の館

〒300-4108茨城県土浦市小野491

TEL 029-862-1002

休館日 毎週月曜日 (祝日は営業、翌日休み)
年末年始 (12月29日～1月3日)

Karakasa Mando

国選択・茨城県指定
無形民俗文化財

からかさ万灯

茨城県 土浦市

鷲神社祭礼